

<堺市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- 会計年度任用職員の学校司書の配置
(中学校週2日、小学校週2日)
- 学校図書館サポーター(有償ボランティア)の回数配置
(中学校年間70回、小学校年間105回)
- 拠点校学校図書館職員による巡回訪問
- 市立図書館による団体貸し出しの実施(運搬も行う)、子ども読書の日の読み聞かせ、図書館見学の実施
- 選書支援
- 子ども司書体験の実施

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- 堺市学校図書館協議会では、会長、副会長、顧問、代表幹事、幹事、委員をおき、読書感想文コンクール、読書感想画コンクールを実施している。
委員には、小学校では各校より司書教諭や学校図書館関係職員が、中学校・高校では学校図書館部会担当の教職員がなっている。
- 初等教育研究部会、中学校教育研究部会に図書館部会を設置している。

3. 学校図書館の具体的な活動例

- 学校図書館教育を推進するために拠点校を5校(小学校3校・中学校2校)指定している。
その実践は、初研や中教研の部会等で随時発表をしている。
- 7月に中学校図書館部会主催の「堺市連合読書会」を設け、各中学校より生徒4名が参加、1冊の図書についての話し合いやディベートを行っている。→今年度中止
- 夏休みの課題に全校、読書感想文を出し、9月の初めより、各学校内での1次審査、学校図書館担当教員による2次審査、図書館部会役員や国語部会校長先生による3次審査の上、大阪府読書感想文コンクールへの応募作品を決定、出品している。
- 11月堺市の読書感想文コンクールの表彰式を行っている。→今年度中止
- 1月に堺市での読書感想画コンクールの審査を行い、大阪府読書感想画コンクールへの応募作品を決定、出品している。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- データベース化し、PCで管理している学校が増えている。
ソフト購入時は市教委に報告し、各校の状況に合わせて実施している。市教委による予算化はしていない。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- 堺市読書感想文コンクールでの特選、優秀作品を掲載した作品集の作成を行っている。
- 年に1回、「学校図書情報」(リーフレット)を全校配布し、読書感想文コンクール、感想画コンクールの入賞者一覧や、協議会会長、市教委、初研・中教研部会代表による寄稿文を掲載している。

6. コロナウイルス感染の対策について

- 図書室の使用前後の手洗いの励行をしている。
- テーブルに透明のパーテーションを設置している。
- 昼休み等の開室時、人数制限を設けたり、来室できる学級を指定したりする制限を設けている。

7. タブレット導入について

現状

- 休校となった場合には、リモートで授業ができるような環境が整備されてきている。
- 授業でTeamsやFormsを使い始めているが、読書活動等には、なかなか使えていない。

問題点

- 教職員のアプリに関する知識やスキルに大きな差がある。
- タブレット端末を使った効果的な授業のイメージがなかなか持てていない。

<泉大津市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- 小中学校に図書館司書を各1名配置。
(雇用形態は有償ボランティア。基本的に週4日午前中勤務)
- 2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について
 - 管理職の顧問を中心に、各校の読書感想文担当者が年4回集まり、読書感想文・感想画コンク

ールの業務や情報交換等を行っており、市内の審査はこのメンバーで行っている。また、読書感想画コンクールについては、市教育研究会図書部と連携して、取りまとめ及び審査を行っている。

- 本年度は市教育委員会主催で、図書館担当者連絡会と図書館活用計画作成研修を複数回開催。

3. 学校図書館の具体的な活動例

- 市内8小学校中3校において、休日の地域への図書館開放を行っている（貸出業務はしていない）。運営は地域人材で行い市のサポートもある。読書活動のほか、地域交流の拠点としてイベント等にも活用している。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- 本年度、新市立図書館（シーブラ）開館に合わせて、市立図書館と学校図書館の蔵書は全てコンピュータで一元管理し、貸し出し業務を行っている。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- オンライン化により市立図書館や他校の蔵書も検索できるようになり、学校を通して市立図書館や学校間の貸し借りも可能。

6. コロナウイルス感染の対策について

- 図書室入り口に消毒液の設置。
- 授業終了後、休み時間解放後に机上をアルコール消毒。

7. タブレット導入について

現状

- 市内全校の児童生徒1人1台タブレット（iPad）を配布済み。授業ではロイロノート、タブレットドリル等を使用。また、Googleクラスルームでの遠隔指導（家庭と学校を結ぶ）を試験的に行った学校も多い。総合の授業ではプログラミング作成にも使用。いろいろな教科の調べ学習にも活用している。
- ポプラ社の電子書籍yomokka！を市で一括登録（令和4年3月31日まで無料）し、読書活動にもタブレットを使用できるようにしている。

問題点

- 使用するソフトに限りがあること。
- 家庭での使用マナーを徹底しにくいこと。

- 教員のICTスキルにムラがあること。
- Wi-Fi環境が不安定な時があること。

<和泉市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

各校に学校図書館支援司書が1名配置されており、図書館運営の支援をおこなっている。

2 & 3. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

○小学校

和泉市小学校教育研究会図書館教育部会では例年6回の研究会を開き、本の紹介、講師を招いての研修、図書館等の見学、各小学校の委員会活動の報告を行っている。

（R3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3回の開催となり、年間計画策定・和泉市図書館の見学・和泉市図書館の図書通帳の入れの制作・和泉市図書館見学・読書感想画審査などをおこなった。）

○中学校

例年4回の研究会を通じて、研究課題について協議・検討し、学校図書館のあり方について考えている。

講師を招いての講演会を行うなどの活動もおこなう。（R3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できず。）

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

令和2年度末までに、図書の電子管理については、小学校21校中7校・中学校10校中2校で行っている。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- 市の電子図書館の利用が市内全児童・全生徒が可能となる。
- 市立図書館と連携しながら学校図書館の活用を推進している。

6. コロナウイルス感染の対策について

入室前の手指消毒、机・座席の間隔をとり、密を回避、カウンターに飛沫防止シールドを設置、換気の徹底等の対応をおこなっている。

7. タブレット導入について

全児童・生徒への配置が完了し、Google classroom・ロイロノート・タブレットドリルなどの活用が、市教委の指示のもと、各学校で計画的に順次行っており、子どもたちの授業や定期的な家庭での活用が少しずつ定着している。学校での通信環境が少しずつ改善されトラブルが解消されてきている。

〈高石市・忠岡町〉

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

・学校司書が各校週2日勤務で1名配置、その他、学校図書館サポーターがボランティア（有償・市費）で配置されている学校もある。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

・高石市忠岡町小学校教育研究会図書館部会では年7回の研究会を開き、各校の図書館教育の交流や、読書感想文、読書感想画の地区審査を行っている。今年度は、感染拡大防止のため、オンラインを含め2回の開催となった。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

・一部の学校でコンピュータ化、蔵書データのMARCを使用しているが、台帳（紙媒体）での管理の学校もあり、市や町で一元管理はされていない。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

・読書ノート（1～4年100冊分、5～6年20冊分）
書名と感想を書き、ノート1冊分記入すると表彰している。

・市立図書館と連携しながら学校図書館の活用を推進している。

6. コロナウイルス感染の対策について

〈行政の支援内容〉〈市内学校の独自の対策〉

・今年度も、コロナ禍で、学校図書館での感染予防対策を行いながら読書活動を推進している。

また、読書感想文の地区審査に関しては、密を避けるため、ICTを活用し、インターネット上で審査をおこなった。

【市教委からの支援内容】

・エタノール・次亜塩素酸水・ビニール手ぶくろ、ペーパータオル等の提供

【市内学校独自の対策】

- ・手洗い・手消毒・貸出し・受付・消毒の順で感染対策をとっている。
- ・椅子・机等の消毒を担当、司書で行っている。
- ・本を貸出したあと、3日間、貸出しをとめる。

（ウィルス対策）

・図書室は、基本的に、貸出し・返却のみに使用。

7. タブレット導入について

現状

GiGA スクール構想の実現により「一人一人の能力や適性に応じて個別最適化された学び」を実現するため、今年度より児童に一人一台のタブレットが市内全ての小中学校全児童に配備され、各教室には無線アクセスポイント、プロジェクタ、大型テレビが備え付けられた。しかし、タブレットPCを配備し環境を整えただけでは、個別最適化された学びが実現するとはいえない。学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」から生まれる「個別最適な学び」と「対話的な学び」の往還が必要であると感じている。今年度、高石市でスマートスクールモデル校の取り組みを授業公開していただき、市内小中学校において、「主体的な学び」から生まれる「個別最適な学び」と「対話的な学び」の授業イメージをもつことができた。

問題点

タブレット端末の活用において、学校間格差が生じている。この格差をどう解消していくかが今後の課題である。